

【81】水の流れ、人の流れ

突然のにわか雨といっても豪雨の時、JR 渋谷駅の改札口の前は雨宿りの群衆が大勢で、私をはじめ駅の外へ出たい人がなかなか出られないのです。

雨に関係なく次々と到着する電車から降りた客が、二階のホームからエスカレーターや階段を介して次々と降りてくるので、人は溜まる一方で隙間も無くなってきたので恐怖を感じ、豪雨に濡れるのも構わず往来へとび出しました。

この頃の豪雨時に、各地で道路面にある下水道の蓋が跳ね上がって、空気混じりの水が噴水のように吹き上がる現象が見られます。

管路や暗渠のような閉鎖路を流れている流水は、短時間にその流量が急増すると逃げ場を失った流水や空気が何処かに捌け口を求めて吹出そうとします。

この事は水力発電や化学工業の世界では良く知られていて、流体（液体、気体）の流れる管路には、非常用の排水弁、排気弁（水力発電ではサージタンク）が設けられています。

下水道の場合は、短時間豪雨の時代を迎えて、下水幹線の要所要所に雨水の地下貯留地や貯留菅を設ける方向で、現在各地で工事が進められています。

駅の話に戻りますが、歩いている人の流れも水の流れに似たところがあって、安定していた人々の通行が事故等の異変により妨げられると、人が過密になる部分が発生し、一時的な溜まり場所や逃げ道が必要になります。

人の大勢通行する駅では、人の通行の遅くなる階段（エスカレーター）の取り付け部や改札口の前後に広いスペースが必要な理由です。

出札所前の広いコンコースもそういう性格をあわせ持つ広場的空間です。

しかるに近年、駅でちょっとしたスペースがあると、コーヒースタンドやコンビニが出来て、わざわざゆとりの無い空間にしている例が増えてきました。

収益を重んじる立場からは、そういう何事もなければ人の通行に直接寄与していないスペースは無駄に見えるのですが、群衆による混雑時の事故を心配する立場（いやな性格ですね）からは気になるのです。